

令和4年2月15日

総合政策局参事官（国際物流）室

マレーシアの物流事業者等を対象としたコールドチェーンの 普及啓発セミナーを開催しました

令和4年2月7日（月）、国土交通省はマレーシア運輸省及び一般財団法人運輸総合研究所との共催により、「マレーシアにおけるコールドチェーン普及啓発セミナー」をオンライン形式で開催しました。

本セミナーは、マレーシアの物流事業者等を対象に、コールドチェーン物流サービス規格の意義や認証体制の整備の重要性について、理解を醸成することを目的として開催したものです。

日本及びマレーシアをはじめ ASEAN 各国の物流事業者、荷主、認証機関等から 500 名を超える多数の方に参加いただきました。

<開催概要>

日 時	令和4年2月7日（月）15:00 ～ 17:30
形 式	WEB 会議
開 催 者	国土交通省、マレーシア運輸省、一般財団法人運輸総合研究所
プログラム	別紙1のとおり
結 果 概 要	別紙2のとおり



【お問い合わせ先】 総合政策局参事官（国際物流）室 高橋（昌）、木下、高橋（潤）
電話：03-5253-8111（内線 25404、25425、25416）
直通：03-5253-8800 FAX：03-5253-1559

マレーシアにおけるコールドチェーン普及啓発セミナー プログラム

開催者	国土交通省、マレーシア運輸省、一般財団法人運輸総合研究所
協力	一般財団法人運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所
	<p>プログラム 1: 開会挨拶</p> <p>1) 寺田 吉道 国土交通省 公共交通・物流政策審議官</p> <p>2) 宿利 正史 一般財団法人運輸総合研究所 会長</p> <p>プログラム 2: 基調講演</p> <p>森 隆行 流通科学大学 名誉教授</p> <p>プログラム 3: 現地物流事業者からみたコールドチェーン物流サービス規格普及の意義</p> <p>1) Freddie Lim, CEO, and Nee Phing Tan, CBDO, TASCO Yusen Gold Cold Sdn Bhd (TYGC)</p> <p>2) 岩原 功一 CEO, NL Cold Chain Network (M) Sdn. Bhd. (NLCCN)</p> <p>プログラム 4: 国土交通省によるコールドチェーン物流サービス規格の普及に向けた取組</p> <p>大坪 弘敏 国土交通省 大臣官房参事官 (国際物流)</p> <p>プログラム 5: コールドチェーン物流サービス規格の認証体制整備に向けた取組</p> <p>平田 純一 一般財団法人日本海事協会調査開発センター長 交通物流部長</p> <p>プログラム 6: マレーシア運輸省によるコールドチェーン物流サービスに関する国家規格化の現状と見通し</p> <p>マレーシア運輸省 戦略企画国際局 課長</p> <p>Azwana Binti Mohamad @ Ahmad</p> <p>プログラム 7: パネルディスカッション・質疑応答</p> <p>モデレーター 森 隆行 流通科学大学 名誉教授</p> <p>パネリスト Freddie Lim, CEO TASCO Yusen Gold Cold Sdn Bhd (TYGC)</p> <p>岩原 功一 CEO, NL Cold Chain Network (M) Sdn. Bhd. (NLCCN)</p> <p>大坪 弘敏 国土交通省 大臣官房参事官 (国際物流)</p> <p>平田 純一 一般財団法人日本海事協会調査開発センター長 交通物流部長</p> <p>Azwana Binti Mohamad マレーシア運輸省 戦略企画国際局 課長</p> <p>澤田 孝秋 一般財団法人運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 (AIRO) 次長</p> <p>プログラム 8: 閉会挨拶</p> <p>マレーシア運輸省 戦略国際企画局長 Rosbi Binti Abd. Rahman</p> <p>(代理) マレーシア運輸省 戦略国際企画局次長 Anis Mardiana Binti Abdullah</p>

マレーシアにおけるコールドチェーン普及啓発セミナー 結果概要

(各講演の主な内容)

- 森隆行流通科学大学名誉教授より、特に ASEAN におけるコールドチェーン需要拡大の背景や、食品ロスの原因について説明があり、その対策として物流事業者のみならず荷主や消費者に対し、食の安全に対するコールドチェーン物流の果たす役割の重要性など、正しい知識を学ぶ機会を提供することが重要であるとの意見が示された。
- TYGC（郵船ロジスティクスのマレーシア現地法人）より、食の安全性の向上や食品廃棄の削減、標準的なサービス品質の確立等、JSA-S1004 がもたらす恩恵について説明があった。また、JSA-S1004 の認証の取得に向けて、昨年8月より日本海事協会の書面審査を受けており、本年2月中には同審査が完了する予定であるとの見通しが示めされた。さらに、食の安全性やサービス品質を維持するために、マレーシア政府は JSA-S1004 をフードバンク・プロジェクトにおける輸送や保管を担う物流事業者の要件として検討するべきではないかとの認識が示された。
- NLCCN（ニチレイロジグループのマレーシア現地法人）より、コールドチェーンを維持する上での課題として、温度管理を挙げ、その解決策として日々の温度記録に加え、現場巡回による監視を徹底するなど、自社の取組事例を交えながらコールドチェーン物流サービスの重要性について強調した。
- 国土交通省より、令和2年度に策定したマレーシアにおけるコールドチェーン物流サービス規格の普及に向けたアクションプランの進捗状況を紹介し、荷主や消費者に対し、コールドチェーン物流サービスの有用性について理解を深めるため、今年度、マレーシアにおいて実証輸送を実施する旨説明した。
- 日本海事協会より、認証機関が JSA-S1004 を審査する際に確認すべき項目をまとめた「JSA-S1004 認証審査ガイドライン」について紹介し、特に、作業手順を示したマニュアルが整備されていることに加え、貨物の積み替え時等の温度管理がしっかり行われていることを審査で確認することが重要であるとの認識が示された。
- マレーシア運輸省より、コールドチェーン物流サービスに関する国家規格化の進捗について説明があり、2025年には国家規格を策定する見通しであるとの認識が示されたほか、日本提案によりISOに設置されたTC315（コールドチェーン物流に関する技術委員会）におけるJSA-S1004の国際標準化の議論に積極的に関与する意向が示された。

(パネルディスカッションの主な内容)

- マレーシアの参加者から、TYGC に対して、JSA-S1004 と既存のハラルに関する規格の両方を導入するにあたっての同社の対応に関する質問があり、TYGC より、ハラル規格はハラル食品の取り扱いに限定した規格である一方で、JSA-S1004 は食品全般にかかる保管と輸送の取り扱いに関する規格であり、取り扱う貨物に応じて両規格を効率よく取り入れているとの説明があった。
- 日本の参加者から、マレーシアにおける規格の普及に向けた今後の方向性について質問があり、マレーシア運輸省からは、物流事業者は規格を導入するコストとメリットをしっかりと見極める必要があること、また、認証体制の整備も重要であり、日本の協力に対する期待が示された。また、森名誉教授からは、メーカーや小売業者がコスト面のみならず品質面も考慮して物流事業者を選択するという認識を持ってもらうことが規格の普及にとって重要な視点であるとの説明があった。